

令和 2 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告書

（令和 3 年 3 月）

報告者氏名・所属	奥田知靖（岩見沢校・准教授）	
研究プロジェクトの名称	多様なスポーツに発展する子どもの運動能力を育成するスポーツ指導者養成システムの構築	
プロジェクト担当者（氏名・所属・職） ※代表者に●を付すこと	志手典之（岩見沢校・教授），森田憲輝（岩見沢校・教授），小倉晃布（岩見沢校・講師），山本理人（岩見沢校・教授），安部久貴（岩見沢校・准教授），大山祐太（岩見沢校・准教授）	
研究プロジェクトの概要等（期間全体）		
<p>近年、小さい子どものうちは多様な運動に取り組む「早期多様化」の重要性が提唱され、子どもの将来の運動継続の可能性を考慮した指導理論が注目されている。これらのことから、平成28年度～平成30年度の北海道教育大学重点研究プロジェクト（代表：奥田知靖）において、幼少期のスポーツの専門的知識と実践的能力を身に付けた指導者を育成するプログラム「CAPS-Childプログラム」を開発した。しかし、このプログラムの講習会の継続的な運営には至っておらず、地域への研究成果の還元および普及について課題が残っている。</p> <p>そこで本研究プロジェクトでは、指導者養成プログラム「CAPS-Childプログラム」の内容をさらに充実させ、継続的な講習会の運営および指導者資格の認定を行うシステムの構築を目的とする。そして、幼少期の運動に関してさらなるデータの収集及び体系化を行い指導者養成プログラムの内容の充実をはかること、指導者養成の継続的な運営システムの構築をはかること、本研究の成果に基づき地域のスポーツクラブや学校体育で活用できるトレーニングプログラムの開発することの3点に取り組む。</p>		
進捗度	2	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味 （進捗度が3もしくは4の場合、その理由や問題点等を記入願います。）
<p>今年度は本プロジェクトの2年目である。今年度の課題は2点であった。1つ目は、ドイツから講師を招き、ワークショップを開催し、その知見を活用した指導者養成プログラムシステムを構築することであった。2つ目は、外部団体と連携し学校体育や専門的スポーツ団体で活用できるプログラムの開発に取り組むことであった。</p> <p>しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で、海外から講師を招いたワークショップを中止せざるを得なかった。このため、2つ目の課題である外部団体との連携によるプログラムの開発に取り組むことになったが、この外部団体との連携についても、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部中止した事業や、実施できた事業も9月ごろから実施できるようになったため、全体的に予定に遅れが生じることになった。また、ワークショップを中止にしたことから、本来は次年度の予定であった「指導教材（テキスト）作成」，「ハンドブック配布」，「ホームページ開設」に予定の変更を余儀なくされた。</p> <p>このような状況の中、他団体との連携は当初予定していた団体との連携を中止したものもあったが、一程度は実施できた。また「ハンドブック配布」については、予算等に鑑みパンフレットという形式になったがハンドブックに相当するものであるため概ね達成できたといえる。「ホームページ開設」については、本来は令和3年度の予定であったが先回りして達成できた。一方で、「指導教材（テキスト）作成」は、作業を進めているものの完成には至らなかった。これらを総合的に判断し、プロジェクトの進捗度は「2. ほぼ順調に進んでいる」という状況である。</p>		
研究実績の概要（今年度）		
<p>1. CAPS-Childのパンフレット作成および配布</p> <p>これまでに収集した資料の体系化，およびデータの分析結果をまとめ（<u>研究成果の公表実績</u>），CAPS-Childの理念およびプログラムを充実させた。これを地域のスポーツ指</p>		

導者及び保護者に普及するために、CAPS-Child のパンフレット「豊かな運動経験がひらく子どもの可能性～充実したスポーツライフに向けて～」(添付資料 1) を作成し、岩見沢市内を中心に 4,000 部を配布した。

2. CAPS-Child のホームページ作成および公開

CAPS-Child の理念を普及するためにホームページを作成し、子どもに対する指導方法の留意点や、およびそれ支える団体等について紹介している。ホームページの URL は、<https://i-campus.hokkyodai.ac.jp/caps-child/>である。また、家庭でできる運動プログラム動画として 20 事例を作成し、ホームページに公開している。

3. 外部団体との連携による運動プログラムの開発

- 1) プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズのベースボール・アカデミーおよびフィジカル・アカデミーと連携し、子どものアジリティ能力を測定し、フィードバックを行った。これにより、アジリティ能力向上を目的とした新たな運動プログラムの開発のための基礎的資料を得た(添付資料2および3)。測定日は、2020年8月24日、8月26日、8月29日、9月1日、9月2日、9月3日、2021年2月16日、2月17日、2月18日、3月1日、3月3日、3月4日であった。
- 2) プロバスケットボールチームレバンガ北海道のアカデミーと連携し、子どものSAQ能力測定を実施した。これにより、子どものSAQ能力向上のための新たな運動プログラムの開発のための基礎的資料を得た(添付資料4)。測定日は、2020年9月4日であった。

4. CAPS-Child研修会および子どもの運動プログラムの実施

CAPS-Childの理念とプログラムを普及させるために、士別市体育協会、岩見沢市、また地域スポーツクラブ一般社団法人SLDIと連携し、地域のスポーツ指導者および保護者対象の研修会、および子どもの運動教室を実施した(研究成果の公表実績)。

教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・CAPS-Child のパンフレットは、子どものスポーツ指導の分野において、新しい実験・技術の習得やスキルアップのために現職教員が研修を行う際に利用可能である。また、公開したホームページは、実際の運動プログラムが公開されていることから、地域が抱える子どもの運動機会の不足、また運動能力の低下の問題に対応している。
- ・地域のスポーツ団体と連携した研修会や共同研究等の事業を行うことは、結果としてステークホルダーの声を聞く重要な機会となり、これにより地域が抱える課題を理解でき、CAPS-Child の指導者養成プログラムの内容を充実させることができた。したがって、このプログラムは、地域のスポーツクラブ・学校体育などに寄与するものと考えられる。

研究成果の公表実績(今年度)

【著書】

安部久貴(2020). 学習の場の設定と「適時性」, 鈴木直樹・濱田敦志(編) 体育で実現する“ホンモノ”の「ゲーム中心の指導アプローチ」—第6回国際ゲームセンス学会の成果より—, 創文企画, pp. 111-119.

Murase K., and Ambe H. (2021). Learning from Adaptation Games in a Japanese Basketball Unit. In R.L Light, & C. Curry (Eds.) Game Sense for Coaching and Teaching International Perspectives. New York: Routledge, in press.

【学術論文】(投稿中も含む)

Ishihara T, Nakajima T, Yamatsu K, Okita K, Sagawa M, Morita N. Longitudinal relationship of favorable weight change to academic performance in children. NPJ Sci Learn. 2020, 5:4. doi: 10.1038/s41539-020-0063-z.

Ishihara T, Nakajima T, Yamatsu K, Okita K, Sagawa M, Morita N. Relationship of

participation in specific sports to academic performance in adolescents: A 2-year longitudinal study. Scand J Med Sci Sports. 2020, 30(8):1471-1482. doi: 10.1111/sms.13703.

石原暢・森田憲輝. 日本の子どもの身体活動, 体力, 体格と学力および認知機能の関係: ナラティブレビュー (総説). 日本臨床運動療法学会誌 (掲載決定・印刷中).

奥田知靖・安部久貴・房野真也. ボールゲームの戦術行動における幼児のコート上の位置取りの変化—Ballschule(バルシューレ)の戦術トレーニングの効果—, 北海道教育大学紀要 (3月発刊予定)

小倉晃布. 時間的制約を意識した促発指導における起点構成化に関する事例的研究, スポーツ運動学研究 33号, pp.101-121, 2020, 日本スポーツ運動学会.

小倉晃布. 保健体育科教員養成における教科に関する科目「運動学(運動方法学を含む。)」の内容検討—学生への事前・事後アンケートの結果をもとに—, 星槎大学教職研究 5, pp.9-16, 星槎大学教職総合支援センター.

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

【学会発表】

- ・御園生康輔, 山本理人, 中島寿宏. 中学校保健体育科教師の授業改善への関心を高める要因に関する質的研究—教師の信念体系の形成に着目して—. 日本体育科教育学会 第25回学会大会 (Web-Online), 2020年10月.
- ・Ogura, Akinobu. A Case Study on the Instruction Method for Vaulting Box in Gymnastics, The 2020 Yokohama Sport Conference (Web Online), Poster Presentations, 8-22th September 2020.

【シンポジウム】

- ・森田憲輝. 子どもの体格(肥満とやせ)と知的健康との関連性. 第39回日本臨床運動療法学会学術集会, シンポジウム (Web-Online), 2020年9月5-6日.

【セミナー・普及啓発イベント等】

- ・第1回バルシューレジャパンC級指導者養成講習会 (理論) CAPS-Child協力 (資料提供), 2020年5月30日 (土), オンライン, 22名
- ・第2回バルシューレジャパンC級指導者養成講習会 (理論) CAPS-Child協力 (資料提供), 2020年7月18日 (土), オンライン, 40名
- ・第1回バルシューレジャパン C 級指導者養成講習会 (実技) CAPS-Child協力 (資料提供), 2020年9月26日 (土), 札幌, 11名
- ・第3回バルシューレジャパンC級指導者養成講習会 (理論) CAPS-Child協力 (資料提供), 2020年10月10日 (土), オンライン, 34名
- ・第4回バルシューレジャパンC級指導者養成講習会 (理論) CAPS-Child協力 (資料提供), 2021年2月6日 (土), オンライン, 40名
- ・第1回バルシューレジャパンC級指導者養成講習会in北海道 CAPS-Child協力 (資料提供), 2021年3月27日-28日 (土), 函館北斗市, 18名 (予定)
- ・岩見沢市教育研究所 出前授業
北真小学校 (マット運動) 2020年8月20日
岩見沢小学校 (マット運動) 2020年11月17日
中央小学校 (とび箱運動) 2021年2月1日
岩見沢市栗沢小学校 (ボール運動) 2020年11月10日
- ・令和2年度地域連携推進事業
- ・ストレッチ動画「おうちでストレッチ みんなもいっしょにやってみよう!」の作成・配信
- ・一般社団法人SLDI・「タンブリング教室」事業. 岩見沢市公共施設「であえーる あそびのひろば」にて、幼児・児童を対象に「タンブリング教室」を実施

<ul style="list-style-type: none"> ・CAPS-Child 研修会（保護者向け）．2021年1月22日・25日・27日・28日 合計35名参加．会場は、南コミュニティセンター、イベントホール赤レンガ、であえる「遊びの広場」、Zoom オンライン開催． ・士別体育協会スポーツ指導者研修会．2020年12月22日，2021年1月9日・2月14日．合計51名参加．会場は士別市総合体育館． 	
【テキスト、報告書、研修資料等】	
添付資料	資料1：CAPS-Childプログラムのパンフレット 豊かな運動経験がひらく子どもの可能性～充実したスポーツライフに向けて～ 資料2：日本ハムファイターズ ベースボールアカデミー フィードバック 資料3：日本ハムファイターズ フィジカルアカデミー フィードバック 資料4：レバンガ北海道測定結果
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	CAPS-Child ホームページ https://i-campus.hokkyodai.ac.jp/caps-child/
問い合わせ先	氏 名：奥田知靖 電 話：0126-32-0342 E-mail：okuda.tomoyasu@i.hokkyodai.ac.jp